

財務諸表に対する注記

(令和 7年 3月31日現在)

- 1 継続組織の前提に関する事項
- 令和6年度の当期一般正味財産増減額は7,188,177円の増加を計上しましたが、依然として当年度末で1,127,877円の債務超過となっており、継続組織の前提に疑義を生じさせるような状況が存在しています。
- 当該状況を解消するために、今後の収支見通しを基に経営の健全化を進めていきます。
- 具体的には、「ひょうごふるさと館」の販売の充実強化をさらに進め、県産品や観光PRのイベントなどによる集客力の増大に努めるとともに、企業・団体向けの幹旋販売など収益事業の拡充により物産販売収入の拡大を図ります。また、商品管理の徹底などにより販売コストの削減を進め、収益力の向上をめざします。
- さらに、人件費の抑制を継続するとともに、業務見直しによる効率化を推進し、財務体質の健全化を図ることにより、法人の継続性を確保することとしています。
- なお、財務諸表は継続組織を前提として作成しており、継続組織の前提に関する重要な不確実性の影響を反映していません。

- 2 重要な会計方針
- (1) 棚卸の評価基準及び評価方法
- 最終仕入原価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
- ① 有形固定資産は定率法
- ② 無形固定資産は定額法
- (3) 退職給付引当金計上基準
- 自己都合期末要支給額
- (4) 賞与引当金計上基準
- 要支給額の6分の4の額
- (5) 消費税等の会計処理
- 税込処理による

- 3 特定資産の増減額及びその残高
- 特定資産の増減額及びその残高は次のとおりです。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
退職給付引当資産	11,405,186	2,633	0	11,407,819
合計	11,405,186	2,633	0	11,407,819

- 4 特定資産の財源等の内訳
- 特定資産の財源等の内訳は、次のとおりです。

(単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
退職給付引当資産	11,407,819	0	0	11,407,819
合計	11,407,819	0	0	11,407,819

- 5 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
- 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は次のとおりです。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上 の記載区分
補助金						
観光特産品ブランド 構築事業補助金	兵庫県観光振興課	—	36,756,000	36,756,000	0	一般正味財産
合計		0	36,756,000	36,756,000	0	